

# 沼田町歴史探訪

## ～沼田町消防の生い立ち～

沼田町のことを知っているようで、知らないことはたくさんあるかと思います。そこで今回は、火災に立ち向かってきた、沼田町消防の歴史についてご紹介します。

### 1. 沼田町消防の生い立ち

沼田町の開拓が始まってから、わずか10数年後には国鉄留萌線の敷設工事も始まり、沼田町の人口は急激に増加しました。

それに伴い、防火の意識が高まり、明治40年には、沼田消防組の前身となった小規模な「自警沼田火防組」が結成されました。その後、地元住民の理解と協力体制を得て寄付金が集まり、明治43年に田島五三郎氏を創始者として「私設沼田消防組」が設立されました。これが沼田町の消防の始まりです。



### 2. かつての災害と、消火活動、住民の協力体制

沼田町は、これまでに何度も大火災に見舞われました。その代表的なものが、大正13年、製縄工場より出火し、隣接していた沼田尋常小学校を全焼させた火災。昭和5年の沼田役場庁舎を全焼させた火災。昭和24年北1条通り周辺を焼き尽くした大火などです。

当初は、江戸時代を思い起こさせる半纏をまとい、わらじを履き、とび口を持って、手動式ポンプによる放水という簡易な道具で消火活動を行っていました。しかし、前述の大火には全く意味を成しませんでした。そこで、機械を使用した消火の需要が高まり、地域住民の寄付により、ガソリン式ポンプ車が導入されました。このポンプ車の放水試験の際、集まった住民たちはそのあまりの威力に驚いて喚声をあげたことが記録に残っており、当時の住民たちが、火災に対応できる消火機械の導入を待ち望んでいたことがわかります。

### 3. 今の沼田町消防と、資料の展示

明治43年に結成された沼田町の消防組織は、現在その姿を変え、深川地区消防組合深川消防署沼田支署として、沼田町の平和を守っています。

また、当時使用されていた道具が郷土資料として保管されており、今、生涯学習総合センターゆめっくる内ハントホールにて特別展示されています。

展示では、実際に使用されていたとび口や、半纏、町民みんなが協力して寄付を募り購入したガソリン式ポンプ車などが展示されています。ぜひご覧ください。



▲展示の様子

お問い合わせ … 沼田町教育委員会（電話35-2132）

○教育委員会「ブログ」随時更新中○ URL: <https://blog.canpan.info/numakyoui/>

